

平成19年3月24日（土）に、文京キャンパスにおいて平成18年度定時評議員会が開催され、「平成19年度学校法人拓殖大学予算に関する件」が審議の結果、原案通り承認可決されました。平成19年度の事業計画並びに予算の概要は次の通りです。

I. 事業計画

◆平成19年度事業計画策定の指針

1. はじめに

平成18年9月21日開催の第5回理事会において、平成19年度事業計画策定に関する件が承認されました。承認された内容は、（1）平成19年度の法人運営方針について（2）平成19年度法人としての重点施策事項等の基本方針から構成されております。

これらの方針を受け、平成19年度事業計画策定の具体的な方向性及び予算編成における基本的な事項が以下の通り示されました。予算編成にあたっては、従前どおり各事業の目標達成のため既存事業の見直し、費用対効果の妥当性・適切性など多岐にわたり検証いたしました。尚、経常費については厳しい財政状況下を鑑み、また長期にわたる大学文京キャンパス整備事業の財政基盤の確保のため、引き続き経費節減の姿勢を堅持し、前年度比マイナス3%のシーリングを目途に実施しました。

2. 平成19年度の法人運営方針について（理事長）

近年、私立大学を取り巻く環境は大きく変化し、学校法人経営の厳しさが加速度的に増大している状況下、いよいよ来年度には予てより指摘されていた『大学全入時代』が到来する。既に入学志願者の通減が続いているが、日本私立学校振興・共済事業団の平成18年度入学志願動向によると、今春の入試で私大の40%が定員割れとなり、短期大学においては改組転換等による規模縮小傾向にあるにもかかわらず、更に厳しく52%という結果となった。大学間競争の激化が続くなか経営破綻を招いた大学も出現するに至り、今日、大学経営の危機はまさに現実的なものとなってきている。

このように一層深刻度を増す大学社会にあって、本学はこれまで歩んできた百年の歴史を踏まえ、次の百年に向かって力強く生生発展していかなければならない。そのためには時代のニーズに素早く対応できる教学システムを創出し、「個性豊かで魅力ある拓殖大学」を再構築することが、本学の社会的評価を高め、その存在価値を揺るぎなきものにするには言うまでもない。

かつて（平成15年9月）、「法人の運営に臨み、執行部として取り組むべき課題」として7項目を掲げ、これまで全学を挙げてその具現化に努めてきた。改めてその要点を述べると、次の通りである。

- （1）建学の精神に立脚した社会的使命と教育理念に基づいて、個性輝く大学造りを行うことを全教職員及び本学関係者が共有する。
- （2）学生に視点を置いた教育の展開と教学支援体制の充実・強化。
- （3）法人発展のためにステークホルダー（大学利害関係者）と相互信頼関係を構築する。
- （4）法人としての目的達成のために、より強固で健全な財政基盤を確立する。
- （5）教学・経営の全てにわたる徹底した見直しとドラスチックな改革・改善に努める。

これらについては既に具現化しているものもあるが、なお検討課題として残されているものもあり、今後早急な対応が必要であろう。

これまで本学では教職員の努力により、学生の海外留学制度、国際交流活動、新入生に対する初期教育、「授業改善のための学生アンケート」の実施と開示、学生に対する指導・支援体制、就職支援活動をはじめ種々の事項について先駆的な取り組みを行い、多くの実効をあげてきている。しかし、その後の見直しや改善が適宜行われなかったこともあり、今日必ずしも最大効果を上げているとは言い難いものが幾つか見受けられる。この際改めて前掲の項目課題を再点検し、確実に実現・実行していくことにより、これからの熾烈な大学サバイバル時代を乗り越えていくことができるものと確信している。それには何より教職員が自らの役割・任務を誠実に遂行することが強く求められる。加えて、教育職員においては、学生により多くの付加価値を付け、有為な人材として社会に送り出すための教育と優れた研究活動を行うことが望まれる。また事務職員にあつては、エンロールマネジメントを担う立場として大きく大学運営に寄与していかなければならない。

大学が更に厳しい時代に突入する平成19年度（2007年）は、本学にとっても百年の将来を決する大事な年となる。法人の輝かしい未来を切り開くためにも、長期展望の上で立って直面する諸課題の解決に向けて、教職員が一丸となり果敢に取り組んで行くことを期するものである。（本文中における「本学」とは、設置校全てを含めたものである）

3. 平成19年度法人としての重点施策事項（理事長）

「平成19年度の法人運営方針」を受け、次の事項を重点施策とする。

（1）文京キャンパス整備事業の推進

『拓殖大学ルネサンス計画』の中核ともいべき文京キャンパス整備事業は、“21世紀に向けた拓殖大学の一大戦略拠点づくり”として位置づけられる。今春よりこの第一ステージである中央教室棟・南教室棟建設に着手し、現在鋭意工事が進められている。本整備事業は、三つのステージに分けた約8年にわたる一大事業であり、この完遂のためには全教職員が一致協力して取り組んでいかなければならない。特に第一ステージは、その後のステージ進行にも大きく影響を及ぼすものであり、英知を集め整備事業の推進に努める。

（2）教学の改革・改善

大学全入時代の到来により激化する大学間競争において、本学が社会（受験生・高等学校・父母・企業等）から「選ばれる大学」であり続けるためには、学生に対して質の高い教育を施し、より多くの付加価値を与えた有為な人材を社会に送り出していかなければならない。特に本学がこれまで永年にわたり培ってきた建学の精神に根ざした“国際大学”としての特性が一層輝きを増すように、大学院・学部・学科等の教学全般にわたる改革・改善を間断なく続けることが必要である。そのためには、常に「学生」・「社会」に視点を置いた実行可能な責任ある検討を重ねるとともに、それらの具現化に向けて努力をしなければならない。また、「国際大学」を標榜するにふさわしい留学生教育の展開が必要であり、留学生受け入れにかかる諸施策の充実を図るとともに留学生確保のためのより多様な対応を行う。なお現在、全学的な体制で取り組みを進めている大学基準協会による認証評価を受けるための作業の過程で自己点検・評価を厳格に行い、その成果を教学等の充実に資するものとする。

（3）学生募集戦略を中心に据えた広報活動の強化・充実

本学に対する認知度・知名度をより高め、学生募集・就職等に効果あらしめ、ひいては本学の社会的評価のアップに努めるための有効・適切な諸施策を講じる。特に学生募集戦略に立った日常的な広報活動の一層の強化・充実を図る。また、本学の有する知的財産を広く社会に還元するために、公開講座（オープンカレッジ）・研究成果の発信等に積極的に取り組む。同様に本学では多彩な国際交流活動、学生活動、教育活動をはじめ潜在的な広報資源を多数有しており、これらを効果的に内外に知らしめること

により、本学のイメージアップに繋いでいきたい。なお、ステークホルダーに対する広報誌・ホームページ等を活用して情報提供・開示をより積極的に展開し、本学に対する理解と協力、支援を得るための取り組みを強化・充実する。

(4) 学生に対する支援体制の充実

学生のニーズを的確に把握し、大学生活における満足度を更に高めるために修学環境・福利厚生施設の整備拡充に努める。特に開設後30年を迎えた八王子キャンパスにおける施設設備の整備を引き続き行う。また、学生の人間的な成長発展を期して指導・相談体制及び就職・キャリア形成のための支援体制の強化・充実を図る。加えて、体育の振興・強化および文化活動の一層の充実を図ることにより、学生の大学に対する一体感・帰属感を醸成促進し、併せて本学の認知度アップにも資すべく施策の強化に努める。

(5) 北海道短期大学について

日本私立学校振興・共済事業団の報告によると、短期大学の改組転換等による規模縮小傾向にもかかわらず、5割の短期大学が定員割れを起こし、今後とも改善の兆しが見えないと言われている。法人としてもこの厳しい状況を直視し、北海道短期大学（北短）設置の原点と地域の特性を踏まえ、法人を挙げてその打開策を講じなければならない。そのためには北短関係者を中心として実現可能な改革改善策の検討と、大学との連携による施策の検討を経て、有効な改革構想の成案を急ぐ必要がある。なお、検討に際しては学生募集力の向上が最大課題となるが、北短における財政基盤の確立も必要であり、収支均衡に十分配慮されなければならない。

(6) 第一高等学校について

第一高等学校については、武蔵村山市への移転という大事業を経て、目下、学校運営体制の整備と更なる教育内容の充実に取り組んでいるが、附属高等学校としての高大連携をより具体的な形で進めていくとともに、地域の環境・特性をより生かすよう十分に配慮した施策を実施する。

なお、高校は大学と比して少子化現象の先取的影響を受けることから、今後とも安定した入学者確保のための諸施策に留意し、より一層の充実に努めるものとする。

(7) 財政基盤の安定化

法人の諸目的を達成するために最も基礎となるのが、財政的な裏付けである。長引く経済不況の影響や大学特有の構造的環境、そして私学助成の抑制傾向等を受け、今日大学財政は脆弱性を増しつつある。限られた原資を有効に活用するためにも業務全般にわたる見直しを行い、常に「費用対効果」を十分に吟味し進める必要がある。また、補助金・研究助成・奨学金等の外部資金の導入を積極的に図るためにも、社会からの評価に十分耐える研究力・調査力を備える必要があり、そのための推進・支援体制づくりを行う。

なお、文京キャンパス整備事業等における寄付金募集活動についても、積極的に展開をする。今後法人としては、将来にわたり確固たる拓殖大学を構築するために、安定的な財政基盤の確立になお一層の努力を傾注するものとする。

(8) 法人運営のガバナンス機能

私学の経営環境が厳しさを増すなか、法人運営にあたり最も重要なことは、経営と教学が一体不離の関係を強化するためのガバナンス機能を一段と高めることである。そのためにも意志決定のシステムを明確に確立し、決定の迅速化と実行可能な学内体制の再構築とそれを裏付ける学内諸規程等の見直し・整備を行う。特に、「私立学校法」・「学校教育法」の改正を踏まえた本学としての対応を確立する。

また、法人運営にかかるリスクマネジメントへの取り組みを図る。

4. 平成19年度の事業計画策定にあたり（常務理事・事務局長）

平成19年度の事業計画策定・予算編成にあたり、9月21日開催の理事会において大綱が承認されましたので、これに則り鋭意作業に取り組んでいただきたい。『平成19年度の法人の運営方針』及び『重点施策事項』は、法人としての当該年度の経営の方針・指針を示すものです。理事長による運営方針及びその具現化のための重点施策事項にもあるように、「大学全入時代」に突入する来年度（平成19年度）は、将来にわたり発展を続ける拓殖大学を担保するためのターニングポイントになる重要な年です。そのためには、これまでの事業を単にトレースするような予算編成ではなく、一つ一つの事業・業務を「費用対効果」の面から、また十分なる成果や効果を上げ得るものなのか否かを、部内、課内等で十分に吟味・検討を加えながら予算を組んでいただきたい。

なお、厳しい財政状況が続いている状況から、引き続き全般にわたる経費節減の姿勢を堅持する必要がある。予算編成にあたり次の事項について留意されたい。

- (1) 『重点施策事項』について十分に配慮した事業、特に「学生募集力」の強化に繋がるような事業の策定に努める。
- (2) 継続事業（経常分）については、平成18年度当初予算額（平成18年度終了事業を除く）の3%減を目途に策定すること。
- (3) 業務全般について“無駄”を無くすための配慮をする。

以上、平成19年度の事業計画策定にあたり留意すべき点について述べたが、具体的には、「平成19年度予算編成に係る事業目標及び事業企画書の提出について」並びに「平成19年度予算編成に係る事業計画書等の提出について」に従い、遺漏なきよう作業を行ってください。

◆平成19年度事業概要

平成19年度の主な事業は次のとおりとなっています。

文京キャンパス整備事業の推進

- ・第1ステージ中央教室棟・南教室棟建築費用、関連工事費、設備関係費用
- ・第2ステージ関係費用
- ・その他

教育・研究支援関連

- ・成績評価分布表作成、大学基準協会認証評価（相互評価）申請準備
 - ・大学院新研究科設置創設費等、大学院インドネシア政府リンケージプログラム、日本語教育研究所の設置
 - ・「e-Learning」システムライセンス及びハードウェア、メールサーバ等のSSL（暗号化通信環境整備）、サーバ証明書取得、キャンパス間回線の高速化、認証スイッチ等、「desknet's」サーバ更新
 - ・文京キャンパスS・C館情報授業用PC更新、S館ゼミ教室授業用ノートPC
 - ・八王子キャンパスA館ゼミ室AV機器設置、B館・麗澤会館AV教室プロジェクター更新、PC実習室・視聴覚PC教室パソコン更新及びCALL化等、授業用ライセンス管理ソフトウェア
 - ・工学部PC教室機器更新、CADソフト・グラフィックソフト、学生実験用計測制御システム、風洞設備ポンプ修理
 - ・政経学部オーストラリア短期研修、中国天津外国語学院との交換留学制度、海外提携校訪問視察、教員研究室の什器更新、国際学部タイ短期研修
 - ・外国語学部開設30周年・工学部開設20周年各記念誌等刊行
 - ・その他
- (継続事業)「授業評価」、「ベストティーチャー賞」、個人・共同研究助成、学会参加、受託研究事業、奨学寄附金事業、マレーシア日本語教育、海外提携校・機関との交流、拓殖大学後藤新平・新渡戸稲造記念「国際協力・国際理解賞コンクール」、「拓殖大学オープンカレッジ」、子供理科（ものづくり）教室開催、諏訪工業メッセ参加、その他

学生支援関連

- ・就職WEB模擬テスト、在学生対象「感動作文コンクール」、院生研究室パソコン用消耗品、箱根セミナーハウスプロバイダー料金、学生ID一元化サーバ更新
 - ・八王子キャンパス陸上競技場整備、野球場整備、陸上競技場トイレ改修、ゴルフ練習場改修・照明設備設置、高尾駅南口バス停整備、カフェテリア麗澤・イタリアコーナー環境整備、個人面談室整備、就職掲示板増設
 - ・扶桑寮リニューアル第2期工事
 - ・その他
- (継続事業) Web履修登録システム、政経学部「英語ボキャビル賞」、TOEFL・TOEIC Test賞、全学部新生ガイドブック、八王子キャンパス通学路線バス利用者負担軽減、イルミネーション設置、各学部海外研修プログラム、拓殖大学後援会奨学金、その他各種奨学金、研究所奨学論文奨学金、就職合宿セミナー、合同企業セミナー、インターンシップ等、チャーターバス制度、厚生施設利用補助、定期健康診断、学生生活懇談会、オリエンテーションキャンプ、その他

研究所・図書館関連

- ・研究所「安全保障総合シンポジウム」、「危機管理研究会（仮称）」
- ・八王子図書館視聴覚コーナー機器増設、雑誌コーナーほか館内整備、OECD「Statistics(統計資料)」導入、旧外地関係資料の整理再編、図書館システム用スキャナ

・その他

(継続事業) 研究助成、受託研究、奨学寄付金受入、公開講座(国際塾・アジア塾・開発教育ファシリテーター・海外事情研究所公開講座・イスラーム研究センター公開研究会・新日本学・日本語教師養成・外国語講座・日中共同研究プロジェクト・シンポジウム等)、その他

その他の施設・設備関連

- ・文京キャンパス非常用トイレ、八王子キャンパスA館ほか耐震補強、防災備蓄倉庫増設、B館トイレ改修
- ・八王子キャンパス公共下水道整備(汚水配水管設計・測量、負担金等)事業、地球温暖化対策(照明器具交換・女子トイレ消音設備等)推進事業
- ・工学部棟1階バリアフリー化工事(自動ドア設置)
- ・その他

設置校・その他

大 学

- ・国際交流フェスティバル(仮称)開催、学生募集北京事務所開設、学生募集イベント企画、拓殖大学杯サッカー大会30周年記念行事、「桂太郎・後藤新平とロシアー資料集」、拓殖大学ルネサンス事業募金活動、その他

北海道短期大学

- ・私費外国人留学生特別奨学金制度、短大基準協会認証評価申請準備、学生ハンドブック作成、野菜・花温室保守、101教室映像機器更新、その他
- (継続事業) CCNAシスコ技術者認定資格・北海道アウトドア資格・フラワー装飾技能士・レクリエーションインストラクター取得等の支援、自宅通学者支援、新規就農・アウトドアビジネスコース、ミュージカル公演、海外研修派遣、その他

第一高等学校

- ・ドメイン名(インターネット上の住所)変更、入学願書発送等の効率化、予備校サテライト講座システム増設、授業用機器購入等、その他
- (継続事業) 特進コース奨学生、海外語学研修、留学生受け入れ、その他